

日本の「和食」

日本といえば、和食、富士山、花見。
和食とはと聞かれた皆さんは何を思い浮かべる
のだろうか。寿司、天ぷら、すき焼き、そば、

おにぎり。じつはドリアやスパ
ゲッティも日本の料理なのだ。
知れば知るほど面白い和食を
知るたびに出発しよう。



健康な和食

一汁三菜と主食、主菜、副菜、汁物があるため、
1食で各栄養素が補えるのだ。
「まごわやさしい」という言葉が日本では有名だ。
ま:豆類。ご:ごま。わ:海藻類。や:野菜。さ:魚。
し:きのこ類。い:芋類
健康になるのである。



季節のこだわり

和食では旬の食材を大事にしている。
春は山菜や上りカツオ、夏は枝豆やきゅうり、
秋にさんまや柿、冬は牡蠣や大根など
右の写真を見てみよう。さつまいもや栗。
「ごま」も秋の味覚なのだ。
この写真をよーく見ると季節を感じるね。
季節感とは和食にとって大事なのだ。

和食文化の夜明け

和食の始まりは縄文時代。米が食べられてきた。室町時代。昆布だし、少し後に鰹
節だしなどのだしが作られる。
これが和食の夜明けなのだ。

和食は縄文時代から受け継がれ、今まで食べられてきた。これこそ日本の和食なの
だ。だから和食は日本の至宝なのだ。

和紙の世界

和紙は、どのようなものに使われているのだろうか。手紙、折り紙、扇子、、、。このようなものに多く使われているのだ。手紙は今でも使われている。気持ちが伝わりやすいものだ。そんな手紙は和紙でつくられており、職人のあたたかい気持ちがその和紙に伝わっているのだ。今回は、職人の技術が詰め込まれている和紙について紹介しよう。



和紙の歴史

和紙は、中国でつくられ日本に伝わって来ている。奈良時代の710年から日本で大きく進歩し始めた和紙。その次代、提灯・巻物・びょうぶに和紙が使われていた。平安時代に書かれた『源氏物語』『枕草子』などの巻物も和紙だった。昔から使われ、形を変えずにつくられている和紙には感心する。

繊細な技職人

和紙は「手すき技」で主につくられているが、その技は和紙職人にしかできず、手間がかかる繊細な作業だ。紙すきの技は紙の厚さを見なければいけない。光の透け加減をみてつくるのが職人技だ。このような人の手で作業するのは日本の技術の一つだと思う。



和紙の広がり

都道府県ごとに独自文化の和紙がある。それほど和紙は日本に親しみのあるものなのだろう。では東京都でも和紙はつくられているのだろうか。もちろん、「軍道紙」という和紙が作られている。障子や微薄紙として使われてきた伝統のあるものだ。唯一の和紙として無形文化遺産になることも少なくはない。和紙はその地でとれる原料で紙の質が違ってくるのだ。日本で和紙の種類は、1000種類もある。私は、日本に親しみがあるものだと改めて感じた。

ユネスコ無形文化遺産、無形文化遺産にも登録されている和紙。和紙を見るたび、職人の思いが伝わってくる。全国のどこにでもある和紙を大切にしていきたい。だから和紙は、日本の誇りだ。

和の技術を知る会

和紙 日本の「技術」

和紙。その言葉を聞いたら何を思いつくかな。日本の紙と考える人は少なくはない。けれど、和紙にはそれよりも深い意味があるのだ。文化として和紙の大切さをこれから紹介する。

多文化との関係

折り紙、書道、版画、これらの文化にふれたことはあるかな。和紙は数えきれない日本文化と繋がっている。このように和紙は、昔から人々を楽しませてきた。和紙がなければこのような素敵な文化は生まれなかったのだ。

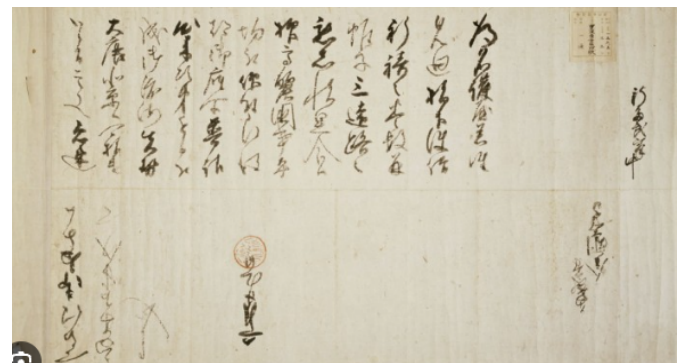


地球温暖化対策に協力

現代の世界では、紙を作るときに森林木を切って紙にしていることもある。けれど、木は環境に大切なものである。和紙を作るには、畑で植える植物を使い、森林がいらない。材料を植えるのに何年もの時間がかかるのだ。このことで和紙の『環境フレンドリーさ』がわかる。和紙は今の地球にとって重要なのだ。

古代の書紀

和紙は中国での後漢に発明された。今から約二千年前だ。この和紙は日本に渡ってきた。この後、主に平安時代に大切にされ、発展した。この時代の俳句、短歌、絵巻などに和紙が使われた。今にも残っていることで和紙は大切にされたと考えられる。何百年がたち、江戸時代になった。江戸の町には色々な紙が使われ、和紙はその中の一つ。丈夫な和紙は様々な職人、芸術家、詩人の好みで、その和紙から美しい作品を作ったのだ。その理由で今まで引き継がれたのか。



和紙は色々な人の思いが山のようにこもっているのだ。大昔から人々を繋げ、今も重要なものだ。だから和紙は日本の宝である。

参考

子供に伝えたい和の技術2 和紙

<https://serai.jp/hobby/64738>

<https://www.tricera.net/ja/artclip/blog892>

日本に誇れる和楽器

体に染みる音色、その名は和楽器。日本独自の楽器で日本人の心を鷲掴みにしてきた。この素晴らしい楽器を今から紹介しよう。

綺麗な模様

右の写真を見てみよう。和太鼓は、きれいな音色だけではなく、こまかい模様がたくさんあり、すてきだ。この写真を見てみると、昔からあるように思う。



和楽器の音を楽しむ文化

和楽器には、さまざまな音の音色がある。例えば、和太鼓は最初から最後まで音が響きわたる小鼓は、あまり響かず音がなる。だから、たくさんの和楽器の種類によって、音の響き方が変わる。

和楽器は、日本独特の楽器、楽器の種類によって音の響き方、模様などが違うので、和楽器は、日本にとって、大切な物だ。

参考

子供に伝えたい和の技術6和楽器

著者

和の技術を知る会

発行者

川元行雄

室町時代の贈り物

皆さんは、日本の古典芸能と聞いて何を思い浮かべますか、真っ先に歌舞伎が思い浮かべますが能や狂言などもあります。聞いたことはあるよという人はいても細かくはよくわからないという人がほとんどだと思います。そんな能の素晴らしさを紹介します。

多彩な絵柄



左の写真を見てください。三光尉、黒式尉、般若などの他にもたくさんの能面が存在しますが場面によって使い分けられています。例えば増と呼ばれる面と橋姫と呼ばれる面があります。増は天女と呼ばれる役に多く用いられますが、橋姫は凄惨な復讐の姿を表す鬼の面、など同じ女でもこんなにも違う役に用いられています。面は他にも三百種も存在しています。こんなにも沢山の面を考えるのに私だったら目を回してしまうのすごいいいことだと思います。こんな伝統芸能は世界を見渡しても他にないと思います。

舞台の演出

楽器は、笛・小鼓・大鼓と、曲によっては太鼓が用いられています。能の囃子は単なる伴奏音楽ではありません。演技とともに、一曲の世界を作り上げるための大切な要素です。初めて能を観る人は、特に打楽器の掛声に驚くかもしれませんが、この掛声自体が、能の音楽の一部をなしています。そのため内容や場面にあった情趣を生み出しています。唯一のメロディー楽器である笛でさえも、ただ美しく旋律を奏でるというよりは、各場面にふさわしい情趣を醸し出すような演奏をしています。楽器を曲として使うのではなく効果音として使うのは斬新で面白いアイデアだなと思いました。

室町時代からの贈り物

能は八世紀、中国大陸から渡来した「散楽」です。中には、多種多様な芸能が含まれていました。現在も継がれている、老翁の面を用いた「翁」です、鎌倉には成立したとされています。こうして仮面芸能は、歌と舞を融合した新たな演劇へと進化しました。それがすなわち「能」と呼ばれる演劇です。能は室町時代から人々に受け継がれているのがすごいなと思いました。能は室町時代から今に受け継がれています。

多くの人の想いでできた能は人々に感動を与えています。

出典

<https://www.nohgaku.or.jp/guide/%E8%83%BD%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>